

編集後記：3月14日、北陸新幹線が金沢まで開業しました。来年には東北新幹線が延伸して函館へ繋がり、12年後には東京-名古屋間でリニア中央新幹線が走るそうです。今でも飛行機に乗れば東京から九州・沖縄・北海道へすぐに行くことができます。便利な世の中です。未来はもっともっと速く移動ができるようになるのかと想像するとワクワクします。一方で、どこへでも手軽に移動ができるようになれば、地域ごとの差異が小さくなり社会の均質化が進むような気がします。

先日、香川県から福島県まで電車で移動する機会がありました。瀬戸大橋を渡り、山陽・東海道新幹線と東北新幹線を乗り継いで7時間の旅です。停車駅ごとに乗り込んでくる人達を観察していると、話されている方言が目まぐるしく変わっていくことに気付きました。新幹線で30分も走ると全く異なる言葉話す異文化の人々がそこには住んでいるんです。考えてみれば

当たり前で、100 km も離れれば異なる気候の土地になるでしょうし、移動手段が徒歩しかなかった時代には訪問するのに何日もかかる距離です。それぞれの方言を話す人々がそれぞれの気候の下でそれぞれの文化を保ちながら何代にも渡って暮らしてきたのだらうと考えると感慨深いです。古い文化が今なお残されているというのも素晴らしいです。

地域ごとの差異が小さくなり便利な世の中になっていく。古き良き文化が残されていく。全く正反対の事象ですが、どちらが一方向的に良いというわけではありません。未来の開拓と過去の継承をどうバランスさせるかが大切だと思います。このバランス感覚は役所や大学や学会の運営も同じじゃないでしょうか。どちらかに偏らないよう自らを省みつつ、学会機関誌の編集に携わろうと思います。

(関山 剛)